

茨城県第4採択地区教科用図書選定協議会

会長 添田 智

教科	発行者の番号・略称 教科書名	事 由
国語	38・光村 「国語」	・各教材の後に学習の流れが分かりやすく図式化された「学びへの扉」があり、学習の見通しをもち、主体的に課題解決ができるよう配慮されている。この「学びへの扉」は横書きで分かりやすく、指導者側としては指導のねらいが明確となり学習計画を立てやすい、学習側としては本単元で何を学ぶのかが明確となるというメリットが考えられる。また、学習の流れの中に、「個→集団（ペア・グループ・クラス）→個」という流れが設定されており、対話的に理解や考えを深める工夫がされている。さらに、振り返りの視点が明らかにされており、特に「つなぐ」という観点があることで、探究的な学びのサイクルが意識しやすい。 ・「語彙ブック」として表現語彙がまとめられていることで、「書くこと」「読むこと」の両方に生かせる。また、系統立てて語彙が示されているため、発達の段階に合わせて使用語彙が増え、語感が磨かれることが期待できる。この「語彙ブック」は、他ページよりひとまわり小さな用紙で入っているため、特別感があると共に見付けやすい。語彙を増やすことが課題となっている本地域での語彙力向上が期待できる。 ・各教材の後に「学びのカギ」があり、この教材で身に付ける資質・能力（学習のポイント）が焦点化・可視化されており、生徒が主体的に課題解決を図る過程で、資質・能力を習得できるよう配慮されている。 ・1年生の教科書の巻頭に「言葉に出会うために」というコーナーが設けてあり、「音読の仕方」や「ノートのまとめ方」「辞書の引き方」「メモの取り方」がまとめてある。学習への取り組み方が分かり易く説明されており、国語の学習方法に関するガイダンスについて指導しやすい。 ・古典教材の配列に工夫がみられる。2年では「枕草子」、3年では「論語」を第1章に配置し、古典教材の分散化を図り、各学年の一時期に集中的に学ぶのではなく、3年間の中で継続的に学ぶことができるよう配慮されている。また、巻物で表された年表があることで、時代背景や作品の理解につながる。 ・写真、棒グラフ、イラスト、表等、説明的文章の中に多様な資料を複数取り入れたり、比較読みできるように3つの文章を扱ったりするなど工夫が見られる。必要な情報と文章を結びつけて考える力の育成が課題である本地域に有効な教材と考えられる。 ・ICT活用のヒント、二次元コード一覧など、ICT活用の道しるべとなるものが集約されているので、必要なときにすぐに使うことができる。全国学力・学習状況調査でも導入予定のCBT（コンピューター使用の試験）がQRコンテンツに導入されており、コンピューターを使用した試験の対策として活用できる。